令和４年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
1 総合学科の特長を活かし、GIGAスクール構想を踏まえた、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	進路指導 教務	【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ｱ) よくあてはまる (ｲ) ややあてはまる (ｳ) あまりあてはまらない (ｴ) あてはまらない	(ｱ)＋(ｲ)の％ ９０％以上　A ８０％以上　B ７０％以上　C ７０％未満　D C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒・保護者)で調査する。	生　徒　９７．２％ A 保護者　９３．４％ A	Withコロナの中でインターンシップ・上級学校見学会・能美市企業ガイダンス等、様々な進路関係のイベントを以前と同様に実施できるように努めてきたこともあり、体験型のイベントの効果が評価されたと考える。進路決定に向けて、保護者にも積極的に関わる行事を継続開催している。加えて、3年次には、今年度初めて、就職・進学合同説明会を開催し、保護者とともに計画実施した。次年度に向けても、保護者に参加を呼びかけていく。
	② 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	教務	【満足度指標】 授業が分かりやすいと回答する生徒が増える。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	生徒による授業評価アンケートで調査する。	９３．６％ A	前期・後期を平均して「先生は熱心に授業を行っている」という回答率が最も高かったことから、生徒の授業全体に対する満足度は高いと考えられる。「この授業はわかりやすい」は前期94.8%から後期93.6%へと微減となったが、アンケート結果をもとに全教員が担当科目ごとに授業改善に向けた方策を実施してきたことにより、前後期を通してA評価を達成することができた。
	③ GIGAスクール構想に則り、従来のICT活用に加え、今年度１人1台端末が整備されるChromebookを活用した授業 の在り方について研究を進める。	教頭	【努力指標】 Chromebookを使って、学習効果の高い授業を行う教員が増加する。	年に２回Chromebookを使って授業を行った教員の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満 （中間評価では１回の使用で評価する。）	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（教員）で調査する。	９７．２％ A	年に２回以上、Chromebookを使って授業を行った教員の割合は、昨年度の94.6%から2.6%の増加であった。教職員の中で、Chromebookを授業で活用する頻度は増加している。生徒も抵抗感なく活用しており、実技教科においても、動画・写真撮影をはじめ、調べ学習や課題の取り組みにおいても活用している。今後も教員同士が連携を図り、研修を行うことにより知見を深め、Chromebookの活用率を高めていきたい。
	④ 個別進学指導や朝学習（マナトレ）、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 各学年	【成果指標】 ア 国公立大学進学者数　５名以上 イ 私立大学および看護・医療系上級学校進学者数　30名以上 ウ 就職内定率　100％	ア・イ・ウの３指標のうち A　３指標すべてを達成 B　２指標を達成 C　１指標を達成 D　３指標とも達成できず	C、Dの場合、改善の検討を行う。	３月に集計する。	国公立大　０名 私大・医療系　２１名 就職内定率　１００％ C	今年度、国公立大学進学者は０、私大・医療系進学者で21名であり、年度当初の目標に届かなかった。就職については、100%を達成した。進学面では、年度当初から、高い目標を持たせその現実に近づけようとしてきたが、取組が結果に結びつかなかった。来年度は、推薦入試を視野に入れながらも、生徒には原則、一般入試で志望校に合格できる学力をつける方策を講じていく。

学校関係者評価委員会の評価	①寺井高校は学習を含め教職員が手厚く指導している。進路実現に向けて担任が的確なアドバイスをしてくれるが、今後は進学に対する体制を強化してほしい。 ③教員のChromebook使用率は100%を目指してほしい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	①進学指導については、外部の教材の活用や特進クラスにおいて特に進学意欲の高い生徒に対する支援の仕方を工夫していく。 ③Chromebookの活用方法について、今度とも継続的な研修の実施に取り組んでいく。

令和４年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
２ 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等でしっかりと挨拶ができるよう指導を行う。	生徒指導 各学年	【成果指標】 「自ら進んで挨拶ができる」と生徒・保護者・教員が評価する。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が８０％以上であるのが、生徒・保護者・教員のうち Ａ　３者とも８０％以上 Ｂ　２者が８０％以上 Ｃ　１者のみ８０％以上 Ｄ　全て８０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、保護者、教員)で調査する。	生　徒　８５．４％ 保護者　８５．４％ 教　員　６７．７％ Ｂ	生徒、保護者よりも教員の評価が低かった。登校指導や街頭指導では、しっかりと挨拶できる生徒は年々増えているように感じるが、日常から自発的に明るい挨拶できる生徒はまだ多いといえないことが原因と考えられる。 集会やホームルームでの指導だけではなく、日常の様々な場面で、教職員から生徒に対して積極的に挨拶したりコミュニケーションを図ったりすることによって、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、自ら進んで挨拶できるよう学校全体で取り組んでいく。
	② 成年年齢引き下げによる法律改正について具体的な事例を示し理解できるよう指導する。	SCH 推進室 各学年 総務	【努力指標】 成年年齢について具体的に理解させる。	成年年齢引き下げについて授業や集会等で指導した教師の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教師)で調査する。	７１．４％ Ｃ	今年度４月より成年年齢が引き下げられたことに伴い、地歴公民科・保健体育科・家庭科を中心に教科指導の中で成年年齢引き下げについての教材を取り扱ったほか、進路指導においてもインターンシップ・企業ガイダンスなどの取組において成年年齢引き下げを意識した指導を行った。次年度、教科指導に加え、各種集会等の取組を通して将来の社会人として成年の責任を自覚させるとともに、消費契約などにおいて自らの権利を自分の力で守る意識を高めていきたい。
	③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	SCH	【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組み努力することを通して、満足感や達成感を得る。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	学校評価（生徒）で調査する。	８２．１％ Ａ	コロナウイルス感染症の影響が減じて諸大会が開催されたことから、評価が高くなったと考えられる（昨年度後期71.8%）。 生徒数減の影響で、部員数の少ない部が増えてきている現状にあっても、少人数への手厚い指導や広い校舎環境を活用することにより、普段の練習や大会での成果などで満足感が得られるよう、さらなる工夫を図っていきたい。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	生徒指導	【努力指標】 いじめの未然防止に取り組み、発生時には迅速な対応をする。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９０％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	学校評価（教員）で調査する。	９６．８％ Ｂ	今年度、３件のいじめを認知した。管理職、担任、学年団、生徒指導が連携し迅速に対応できた。現在のところ落ち着いているが、観察を行いながら注意深く見守っていく必要がある。生徒に対しては「インターネットトラブル教室」や「防犯教室」、いじめ防止標語の作成などを通じて、いじめ撲滅に向けて訴えてきた。今後も様々な機会を捉え、指導していきたい。 教員に対しても、校務運営委員会や職員会議を通じて、職員のいじめ未然防止や情報共有について徹底を図る。今後もいじめは必ずあるものと認識し、些細なことでも情報を共有するとともに、発生時には迅速かつ適切に対応する。

学校関係者評価委員会の評価	①生徒の人格形成において、先生方が丁寧に育ててくれており、感謝している。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	①今後とも生徒一人ひとりに寄り添いながら、生徒のコミュニケーション能力を高め、仲間と充実した高校生活を送ることのできる自己肯定感を備えた人間を育成を目指していきたい。

令和４年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
3 ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地元自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	SCH 総務	【満足度指標】 生徒が地域の活動に積極的に参加し、その活動を通して生徒が満足感を得る。	地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	それぞれの活動後に生徒にアンケートをとる。	８２．８％ Ａ 肯定的評価 １年次生 ８９．３％ ２年次生 ７６．０％ ３年次生 ８２．５％	地域の活動に参加する生徒の満足度が82.8%(昨年度後期81.3%)となった。評価が上がった要因としてWithコロナの中である程度の範囲で様々な行事ができるようになってきたからであると考えられる。１年生は４月の遠足における根上海岸の清掃活動、２、３年生は部活動、イーグル隊、インターアクトなどの校外での物理的な活動やオンラインを通じた外部との接触という新しい手法にも慣れてきていることもうかがえる。 ＳＣＨ（Super Community High school）という名前が生徒にも浸透して、地域の学校という意識が生徒の中に醸成しつつあるものと考えられる。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務 SCH	【満足度指標】 本校の教育活動や取り組みに対する保護者の理解を得る。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	学校評価(保護者)で調査する。	９０．７％ Ａ	Ｒ４の前期の評価と同じく90.7%であった。ホームページのアクセス数は１日平均1,600～1,700件であり、関心の高さがうかがえる。特に９月は平均2,300件と大きく伸びた。学校祭、部活動の結果、地域との交流等について、比較的早い情報公開ができたことが要因であると考える。 また、ホームページに「グッドボタン」を押されている回数も以前よりも多くなっているように感じる。学校の様子が伝わるよう、今後も情報発信を継続して行う必要があると考える。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	教頭 各課主任 学年主任	【成果指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高め、より一層の時間外勤務の削減を図る。	時間外勤務が月４５時間以上であった教員の月平均人数が Ａ　　５人未満 Ｂ　１０人未満 Ｃ　１５人未満 Ｄ　１５人以上	Ｃ、Ｄの場合、改善の検討を行う。	教員の勤務時間記録で調査する。	１１．１人 Ｃ ４月～12月 調査	時間外勤務が月45時間以上であった教員の数は、昨年度と比べて若干の減少が見られた。一方で、教員アンケートでは、タイムマネジメントの意識は昨年度と比較すると93.5%から82.6%と減少している。 Withコロナで学校業務も平常に戻りつつ中で、特定の教員に負担がかからないよう、管理職や主任が業務の進捗状況に気を配り、業務の平準化を図ることを心掛ける。

学校関係者評価委員会の評価	①能美市男女共同参画に関する会議での寺井高校生の発表は素晴らしかった。特に市長に対する意見が市民の共感を得ていた。 ③自己評価計画におけるＡ・Ｂは増加しているが、労働時間の削減についてはＣであり、改善する必要がある。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	①生徒会役員を中心とした能美市との連携事業に取り組む機会を増やすことで、自己表現を通して生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。 ③労働時間の削減については、ＩＣＴ機器やグーグルクラスルームを活用し、資料の作成および配布など業務の負担軽減についてよりいっそう工夫していく。